

E1A 新名神高速道路(大津JCT(仮称)～城陽JCT・IC間)
連絡調整会議(第2回)

説明資料

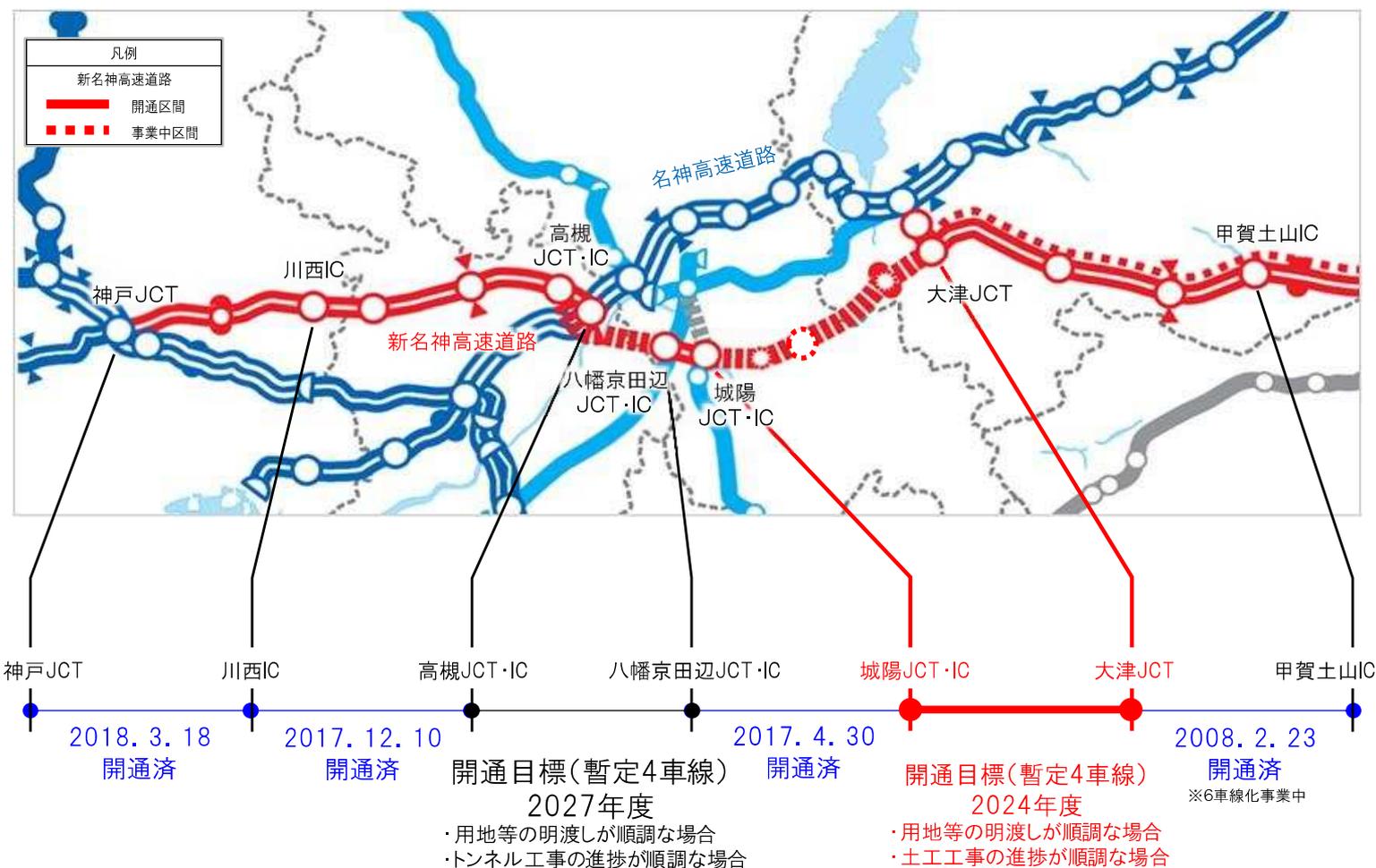
2024年1月17日

(1) 事業概要

■ 大津JCT～城陽JCT・IC間の延長25.1kmにおいて事業中

■ 当該区間は、土工区間が約6割、橋梁区間が約3割、トンネル区間が約1割である。滋賀県域では山間部及び多数の河川が通る急峻かつ狭隘な山岳地形の中、大規模な橋梁やトンネル工事を推進中。また、京都府域では、2つのインターチェンジがあり、大規模な土工やトンネル工事を推進しているほか、平野部においては、国道の近接や鉄道等が複数交差している中、大規模な橋梁工事を推進中

■ 用地取得は全て完了しており、全線に渡って鋭意工事を進めている状況

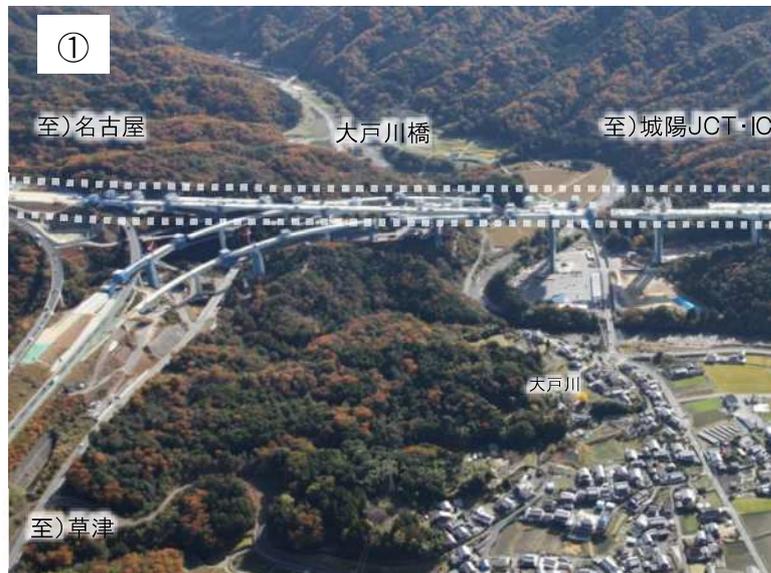
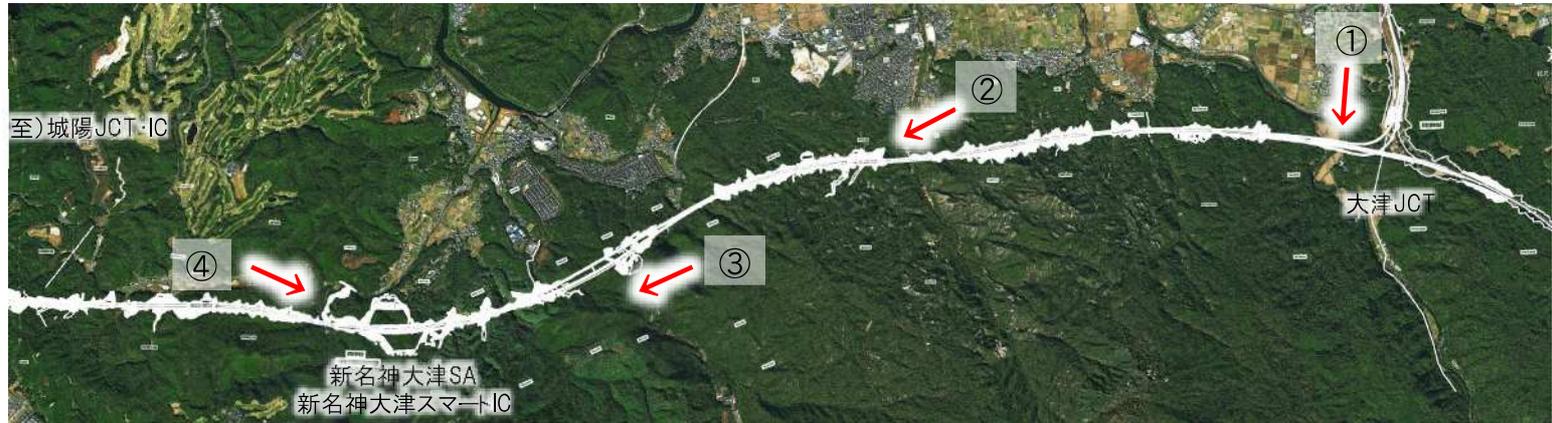


※本資料の事業中区間におけるJCT・IC及び構造物名称は仮称を含む

(2) 工事の進捗状況（滋賀県域の概況）

■ 滋賀県域全線にわたって、土工工事、トンネル工事、橋梁工事を推進中

<位置図>



大戸川橋の整備状況
(2023年11月撮影)



山間部(田上地区)の整備状況
(2023年11月撮影)



大津大石トンネルの整備状況
(2023年11月撮影)



山間部(大石地区)の整備状況
(2023年11月撮影)

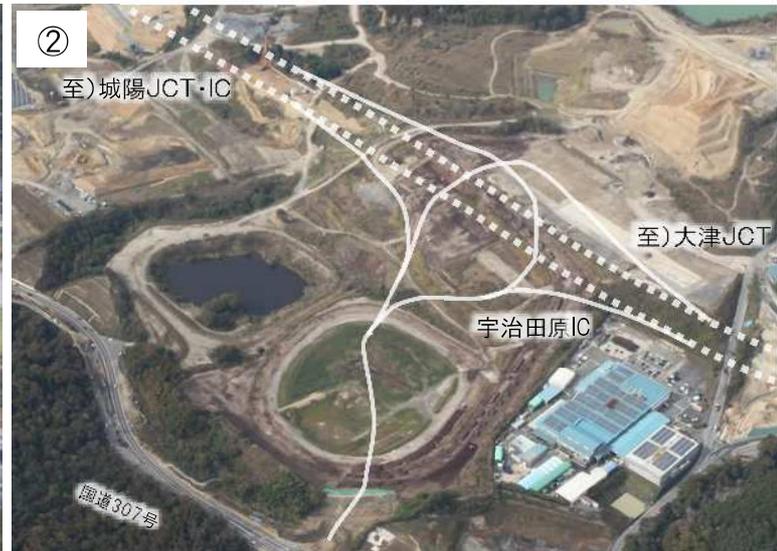
(2) 工事の進捗状況（京都府域の概況）

- 用地取得に時間を要した宇治田原インターチェンジについて、令和5年8月より地盤の状況を把握するためのボーリング調査を開始
- その他の区間について、土工工事、トンネル工事、橋梁工事を推進中

<位置図>



宇治田原トンネル東坑口部付近の整備状況
(2023年11月撮影)



宇治田原インターチェンジ付近の整備状況
(2023年11月撮影)



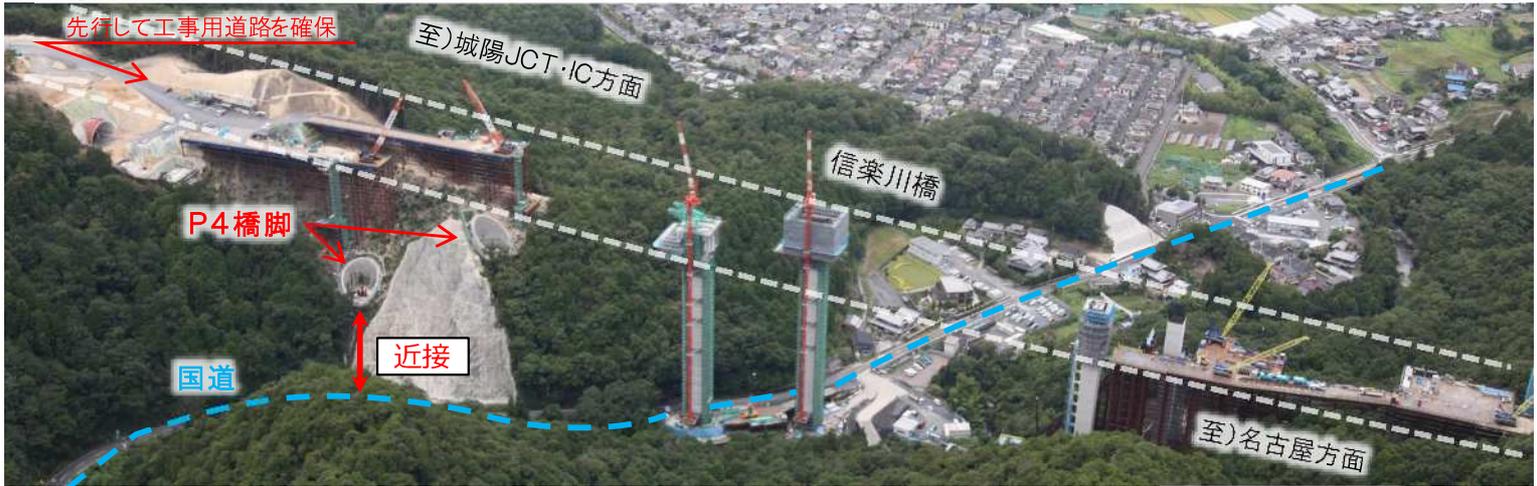
城陽市域土工部の整備状況
(2023年11月撮影)



城陽高架橋の整備状況
(2023年11月撮影)

(3) 工事進捗に伴う新たな課題 < 信楽川橋 >

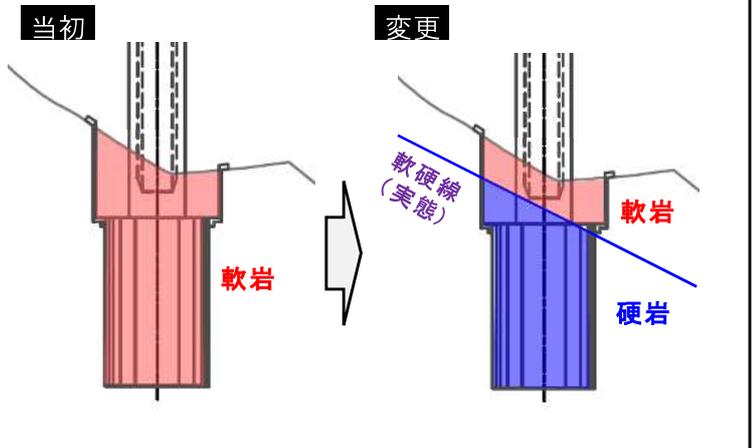
- 一級河川信楽川を横過する橋梁工事は、一部の橋脚において急傾斜地における施工であり、大津大石トンネルの先進導坑により工事用道路を確保したうえで施工に着手
- P4橋脚の基礎杭構築において、事前調査では確認できなかった硬岩が発現。国道が近接していることから、通常発破に比べ振動の少ない非火薬による破碎工法を用いて、国道への落石等がないよう、安全かつ慎重に施工を進めており、工事に時間を要している状況



① 傾斜地における橋梁工事



< P4橋脚(基礎杭断面図) >



非火薬による破碎時の防護工

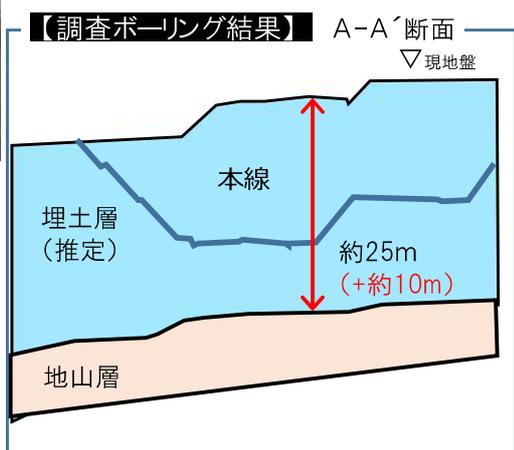
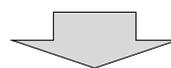
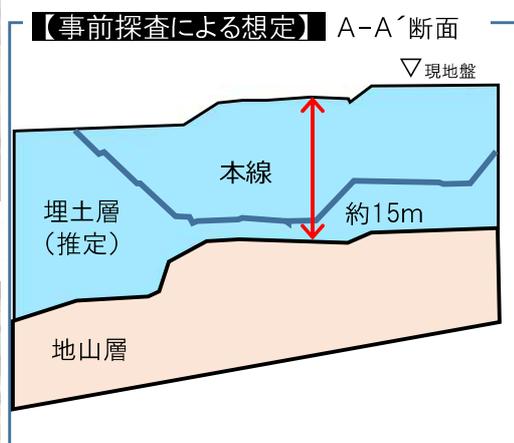


非火薬破碎後の小割作業



(3) 工事進捗に伴う新たな課題 <宇治田原インターチェンジ>

- ウッドショックで代替施設の建築工事に必要な木材の調達が遅れたことなどにより、建築工事に時間を要したため、用地引渡し時期に更なる遅れが発生
- 地権者と協議を行い、土地の引渡しが未了の段階から既存建物の撤去工事と並行して、令和5年8月より地盤状況を把握するためのボーリング調査に着手
- 山砂利採取後の埋戻しが広範囲に分布しており、一部の箇所において埋戻しの深さが事前探査に比べ約10m程度深いことが判明したため、安全な盛土を構築するための地盤改良が増加
また、局所的にコンクリート殻等が発現したため、今後、工事の進捗に合わせ、着実な撤去(分別)作業が必要



既存建物撤去及びボーリング調査



既存建物撤去

ボーリング調査



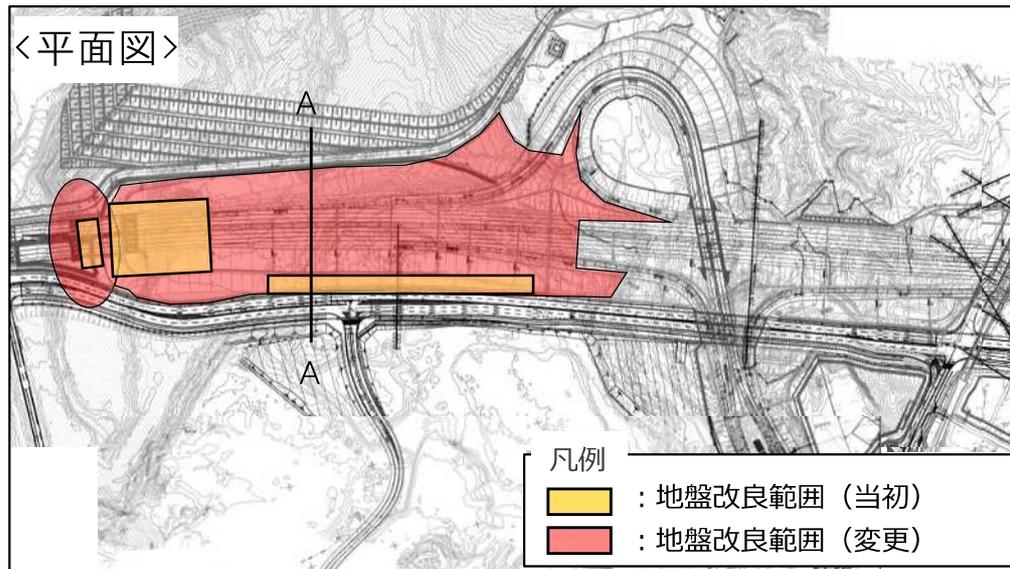
(3) 工事進捗に伴う新たな課題 < 城陽スマートインターチェンジ >

■ 土地引渡し後のボーリング調査において、山砂利採取後の埋戻しが広範囲且つ軟弱な地盤であることが判明し、安全な盛土を構築するための地盤改良が大幅に増加したことにより、工事に時間を要している状況

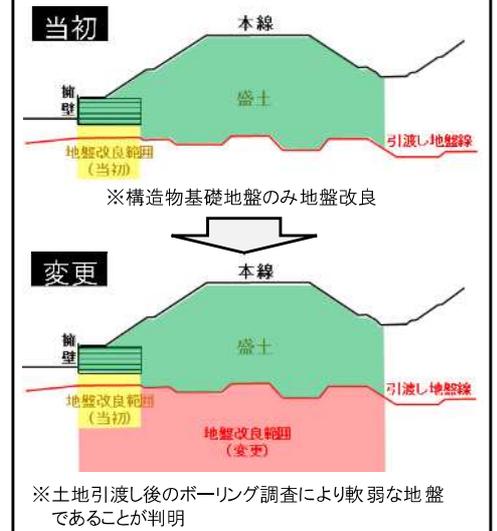
< 位置図 >



< 平面図 >



< A-A断面 >



地盤改良施工状況



(4)大津JCT～城陽JCT・ICの開通時期について

- 大津JCT～城陽JCT・IC間は、全線にわたって土工やトンネル、橋梁工事に着手している状況
- 信楽川橋の基礎杭構築において、事前調査では確認できなかった硬岩が発現し、国道にも近接していることから、安全かつ慎重に施工を進めており、工事に時間を要している状況
- 宇治田原ICにおいて、用地引渡し時期に更なる遅れが発生したことやボーリング調査の結果、安全な盛土を構築するための地盤改良が増加、また局部的にコンクリート殻等が発現したことにより、今後の施工に時間を要することが判明
- 城陽スマートICにおいて、ボーリング調査の結果、山砂利採取後の埋戻しが広範囲となっていることが判明し、地盤改良の範囲が大幅に拡大したため、今後の施工に時間を要することが判明
- 以上より、大津JCT～城陽JCT・ICの2024年度(令和6年度)の開通は困難な状況であり、今後の工事進捗を踏まえた工程精査が必要。

